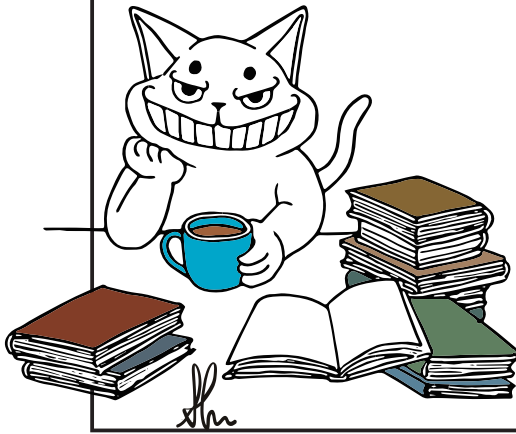


# ばっぺーる通信

## 5月病になってるヒマすらないぜ号

ばっぺーる通信とは…ワーカーズホームの活動報告やお知らせなどを皆さまへお伝えする通信です。興味を持って読んでくださったらうれしいです。そしてコーヒーを注文していただけたらとってもうれしいです。



### ばっぺーる店長Talk

#### 個別支援を徹底していきますので安心してご利用ください。

この一ヶ月振り返ってみると毎日何かに追われ日々それをこなすので一杯でまったく余裕がなかったように思います。年度始めて県への提出書類から始まり、年度末の会計、4月から始まったシェアハウスの細々としたことなど盛り沢山な一ヶ月でした。

というわけで、今号では「回復」についてワーカーズホームが取り組んでいることをお伝えできればと思います。

有名人が薬物使用や所持で逮捕されると必ず「専門家」と言われる方々がメディアに出てきて「依存症は病気で、回復には刑罰よりも治療が必要です。」などとコメントしています。SNS等では「〇〇さんへ回復への支援の手が届きますように」なんてコメントもよく見かけます。

私たちは日々、メンバーと関わっている中で「回復」という言葉はまず使いません。使うとしたらせいぜい「体力が回復した」とか「気力が回復した」といった程度です。むしろ「回復」という言葉は支援する上でかなり邪魔になってきます。

それはどうしてなのか？ それは、依存の問題を持つ方々はすべて同じではないからです。例えば、飲酒する理由が人それぞれ違うので、目標も違います。一滴もお酒を飲まないことを目指している方もいれば、時々飲酒しながらでも毎日通所できるようにすることを目標にしている方もいます。「回復」といって漠然とした言葉では到底語る事ができないほどの問題や課題を皆持

### 今月のカフェ

#### はじめての出張販売は大成功！



↑おしゃれた店内にひるみなからも笑顔で接客中のメンバー達

4月は2日間、宜野湾市の八百屋さん「ハッピーモア市場トロピカル店」さまで出張販売を行いました。当日はかなり緊張しながらの接客となりましたが、2日目にはだいぶ慣れてきて、お客さまとのやりとりを楽しむ余裕が生まれたようです。5月は11日、12日に同じくトロピカル店で出張販売の予定です。

っています。「回復」と言ってしまうとこのような個々の問題や課題がぼやけるといえるか焦点が定まらず、画一的な支援になってしまいます。これは依存問題に限らず、様々な障害を持つ方々にも同じことが言えると思います。私たちはメンバーの毎日の細かな変化を見落とさないよう気をつけながら日々関わっていて、月に一度は一時程度個別面談を行なっています。依存者である前に人である、という当たり前のことを忘れることなく、今後もしも支援を続けていきます。そんな地味で目立たず大変なことを一緒にしてくれる支援員を引き続き募集中です。

### 今月の農園

#### え!? コーヒーじゃないの? 綿花って何?



↑発芽率がとてもよく、あっという間にかわいい葉がたくさん

今年度から地主さんのご好意により農園が約2倍に広くなり、その一部に綿花の種を発芽させて植えました。これは「琉球コットンプロジェクト」に参加して植えたものです。「綿花育ててどうするんですか?」ってよく聞かれますが、私にもよく分かりません。なんだか楽しそうだし、綿をまとった種が発芽して葉が出る感じがかわいいんですよ。

ワーカーズホームのコーヒーが飲めるのはワーカーズホームカフェだけ!

ワーカーズホームの商品はこちらからお買い求めいただけます。→



ばっぺーる通信 Vol.09No.02  
2021年5月1日発行  
発行 一般社団法人むら  
沖縄県宜野湾市大謝名 4-6-28  
電話 098-955-1692  
Eメール info@muraokinawa.org  
Web muraokinawa.org